

愛犬との
ふれあいの俳句



夏

佐怒賀正美 選

特選

吾を星にする初夏の犬の公転

須藤進乃助

【評】 犬を中心に展開される毎日の自分のあり方を、太陽を回る星のようだと喩えた句。犬の公転とは大分大げさに聞こえるかもしれないが、犬を太陽と見たてればあなたが無理ではない詩的誇張法。上五も断定形にした若書きがよい。

愛犬と妻の笑顔へ漁夫帰る

中島 紀生

【評】 季語としての「漁夫帰る」は、北海道で春のニシン漁が終わって、出稼ぎの農民や漁夫たちが故郷へと帰っていった一昔前に使われたもの。今ではほとんど見られないが、作者には往時の思い出が印象深く心に残っていたのだろう。

犬も子もミストシャワーを去りかねて

野村ひとみ

【評】 ミストシャワーを見かけるようになったのはいつ頃からだろうか。汗だくの時には水勢の強いシャワーも気持ちよいものだが、汗ばむくらいなら薄衣のようなミストシャワーも捨てがたい。犬も子も気持ちよさそうだ。

入道雲だつこをせがむ大型犬

吉成 剛

【評】 入道雲がどんどん育つ暑さ極まる午後。毎日か今日だけかは不明だが、大型犬が抱っこをせがんできた。それでなくとも暑苦しいのにまったく、と思いつつも愛犬への愛情は尽きない。甘える大きな犬をしっかりと抱いてあげた。

草笛は「戻れ」の合図犬放つ

吉村 元明

【評】 愛犬を夏野に放ちながら、「戻れ」のしつけもしているのだろうか。愛犬はこの草笛がピーツとなった戻るんだよ、と教え込む。作者にとっては草笛は昔取った杵柄のようなもの。その音はいまでもどこまでも響き渡る。

募集要項

- 日本で唯一の「犬」をテーマにした俳壇です。愛犬とのふれあいの中で得た感慨を俳句にご応募ください。
- 一般部門と児童・生徒部門（中学生以下）の2部門があります。
- 原則として、五七五の17音でまとめてください。
- 募集期間は「春（1～3月）」「夏（4～6月）」「秋（7～9月）」「冬（10～12月）」年4回の開催で、開催ごとに最終月末に締め切ります。
- 応募作品には、四季折々の「季語（季節を表す言葉）」を入れてください。
- ハガキの裏面に以下の必要事項をはっきり楷書で明記してください。①作品（自作未発表に限り、ハガキ一通につき2句まで）②住所氏名（ふりがな）、年齢、性別、電話番号※おひとり何通でも応募いただけます。
- 送り先 〒101-8552 東京都千代田区神田須田町1-5（社）ジャパンケネルクラブ広報課「愛犬とのふれあいの俳句」係

入賞・発表

- 開催ごとに以下の入賞句を選出します。
- 特選…5句
- 入選…10句
- 佳作…20句以内
- 児童・生徒の部入選…若干句
- ※入賞された方には記念品（図書カード）をお送りします。入選句は会報誌『JKCガゼット』に掲載されます。

入選

手荷物の小犬のバッグ帰省旅

石川 昇

夏散歩谷川の水飲むと吠え

浦上 昭一

炎屋のデビュー室内ドッグラン

近江 堇花

犬と逢い水筒出す子夏帽子

葛西 則子

入梅やサッシに犬の鼻の跡

関根由美子

顎を乗せわが籠枕に眠る犬

辻本 智江

稲妻で身をふせるとはできた犬

中下 賢一

植付けのお助け犬や土掘りし

ながみねふみこ

夏蝶とのもせに遊ぶ子犬かな

安田 清一

梅雨空や愛犬の食細りをり

山島 美紀

佳作

水遊び毛肌ピツタリどこの犬

飯田 芳枝

夏草の香に染まり犬野を駆ける

磯脇 博志

潮風と花火の夜を愛犬と

伊東 真

短足を生かしコーギー半ズボン

井上 靖

散歩後の胡瓜の旨さ知った犬

大原 親佳

我が影に座るプードル青葉とき

木村 隆夫

藤垂れるテラスで犬とティータイム

笹谷 豊子

夏至の日の犬の百態大あくび

佐藤眞知子

犬と我やぶ蚊飛び交う森走る

塩谷 順子

手の平をバネに子犬は初夏の芝

白石 雅義

風薫るトイプードルは二匹連れ

杉本 谷夫

鳴る花火犬は尾を巻き小屋籠り

須藤 茂夫

シッポ振りポピーの影からお出迎え

須藤 憲章

テラスにて犬も参加のビアガーデン

高橋 健

亡き犬や伊吹の峰雲となりぬ

辻 栄春

夏やせをしたかと犬の背を触る

中村 暁代

愛犬とジョギング夏の河川敷

原田祥二郎

包帯の取れし番犬流れ星

吉田 敦